

第 11 回全国銃剣道指導者研修会

月刊「武道」掲載資料

公益財団法人 日本武道館

【目次】

中学校武道 授業の充実に向けて 「今」の時代の武道授業を追い求めて	2
鳥取県立武道館 瀬尾憲次（2024年7月号）	2
文部科学省だより 「武道等指導充実・資質向上支援事業」の取組について（2023年9月号）	7
徳島市川内中学校（徳島県）	
氷見市立十三中学校（富山県）	
文部科学省だより 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について（2024年2月号）	13
特別寄稿―学校武道―授業協力者に求められる役割 福岡教育大学 大学院教育学研究科教授 本多壮太郎（2024年9月号）	18
〔随筆〕 ふるさと屋久島で銃剣道を広めるために 渡邊 竜聖（2024年8月号）	21
武道人の肖像 御山 昇（2023年12月号）	22
山口あや子（2024年10月号）	24
私の修行時代 小川 功（2024年3月号）	26
ニュース 令和6年武道振興大会（2024年4月号）	32

■シリーズ■

中学校武道

授業の充実に向けて

184

——「今」の時代の武道授業を追い求めて——

13

（遊びの要素を取り入れて生徒に興味をひかせる銃剣道授業）

鳥取県立武道館 瀬尾 憲次

私は平成17年に自衛隊を定年退職後、鳥取県立武道館に勤務して現在まで銃剣道教室を担当しております。米子北斗中学校（鳥取県米子市）での銃剣道授業は、今年で6年目になります。同中学校は私が初めて少年指導を担当した時の子どもたちが通っていた学校です。今から27年前、わずか3名の生徒を指導したのが始まりでした。

それから約10年間にわたり鳥取県立武道館の銃剣道教室で指導し、国体に2回出場させた経験があります。その後は空白の期間が続いておりましたが、中学校武道必修化となり、米子北斗中学

1

多様化する時代への対応

目まぐるしく変化し多様化した現代においては、インターネット、SNSなどの普及により小学生からタブレット端末を使用して授業を実施するようになりました。デジタル化の進んだ時代では、Z世代と言われる若者への教育は以前のような押し付け一辺倒では敬遠されると思われます。しかしながら、今も昔もコミュニケ

ーションが大事なことに変わりないと思います。よって、授業では言葉遣いに注意を払いながら体全体を使った表現方法が最善と思い、自分流の銃剣道授業を実践しようと考え、全日本銃剣道連盟が作成した冊子およびDVDなどを参考に授業を始めることにしました。

なお、授業には木銃のみを使用してその他の用具は不要です。しかも突き技のみで極めてシンプルで教えやすく、学びやすいという利点があります。このことから、生徒も取り組みやすく、覚えやす



腰割り



股割り



倒立腕立て伏せ

校へ授業実施をお願い出て、平成30年度に銃剣道授業を実施する運びになったのです。そして、このような経緯を経て昨年から中学2年生を、今年から高校1年生の授業を実施しております。

担当体育科教員の方は剣道を必修とされておりましたが、他の武道から学んで「違いを楽しもう」という視野の広い教師でした。このように人にも職場にも恵まれた環境だからこそ銃剣道授業が実現したものと思っています。本稿では、米子北斗中学校の銃剣道授業を紹介します。

く、かつ楽しく学ぶことができるものと思っています。また、安全面にも配慮していますが怪我が少ない競技ですから安心して授業ができます。そして、私が長年にわたり鳥取県立武道館の銃剣道教室で実施している指導法の一部も授業に取り入れている状況です。

以下、拙い授業ではありますが紹介させていただきます。

2

自分流の銃剣道 授業の実践

最初に、銃剣道の歴史と特性についての講義では、銃剣道がいつの時代に導入されたものかを説明します。武道の歴史を話すことで生徒が興味を持つてくれて、モチベーションも上がると思います。

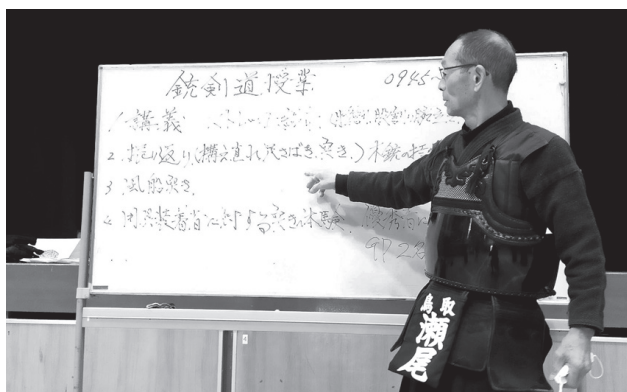
反応はそれぞれで不思議そうにしている生徒もいますし、質問をする生徒もいます。次に木銃の取り扱い方では、硬くて結構重いので間違っても振り回すことのないようにと注意点を挙げます。たまにですが、何げなく人に木銃を向ける生徒もいますので気をつけなければなりません。

次に、礼法です。武道は「礼に始まり礼に終わる」ことを強調しますが、これについては剣道の授業で教わっていますので、一通りの動作で終わります。

その次は実技で、準備体操に入ります。先に私の独特なやり方のストレッチで、腰割り・股割り・



木銃を真っすぐ突き出すように指導



初めに学習内容の説明をする筆者



用具装着者に対する突き体験

腕立て伏せ・倒立腕立て伏せなどを見せてから通常の準備体操を始めます。

「独特なやり方のストレッチ」は私の努力自慢や自己顕示ではなく、継続することの大切さを理解させることと、物事は土台となる基本が堅固であることが重要であること、そしてそのためには基本となる足腰を徹底して鍛えることが必要だということを、授業の冒頭で生徒への掴みのひとつとして実施しております。これは案外食いつきがよいです。

今の時代、武道のイメージを一新したいという思いで、工夫した一例であります。

どうすれば、「楽しい」というイメージを持たせることができるか、そして「面白い」「かっこいい」と生徒に思われるかが不可欠だと思うからです。その結果、銃剣道を好きになり、興味を持つことにつながればと思います。このことから、「風船突き」「新聞突き」など遊びの要素は必ず取り入れております。もちろん、安全第一を優先した授業ですが緊張感を持たせ

ることも必要ですから、その点は気を使います。

次に基本技について、「構え」「直れ」「足さばき」「突き」の順に指導します。

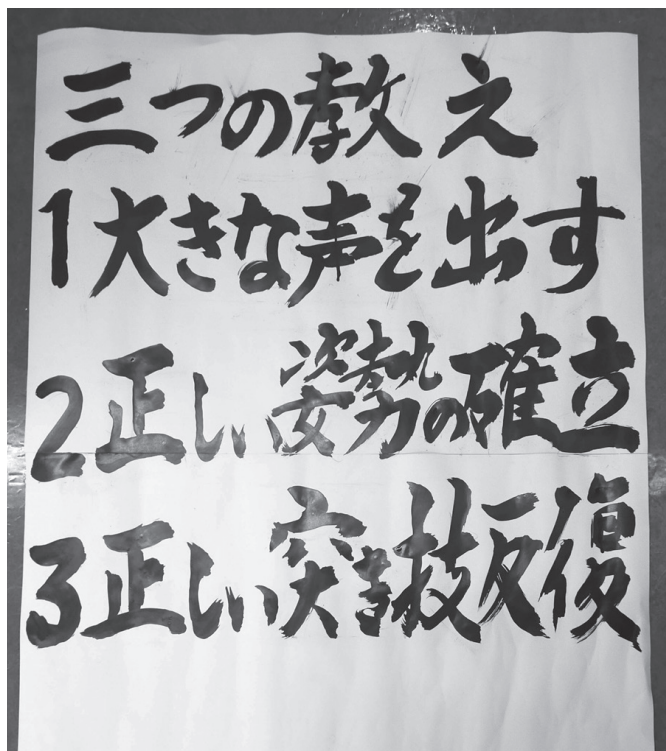
「構え」は、銃剣道の基本姿勢です。丁寧に反復して教えます。

動作はすべて2動作で正しく行うことを強調しつつ、木銃の握りを左手と右手の握りの違いの理由を説明しながら動作を展示します。事後「足さばき」を実施します。足さばきについては、姿勢を崩すことなく移動することを強調します。

そして、最も大事な「突き」の動作では、右手が左胸下方、左手が胸の高さになるように木銃を真っすぐに突き出すこと、突き出した木銃が床と平行になることを強調します。なお、手で突くのではなく、姿勢を崩すことなく腰から突くことが大事であること、また、上半身が前傾にならないように注意します。さらに、突いたら抜いて構えに戻ることで一連の動作になることを指導します。しかしながら木銃を持つ際に大半の生

指導計画の一例

銃剣道指導計画			担当者	瀬尾 憲次	科 目	銃 剣 道
目 的	中学校武道必修化の充実と銃剣道の普及振興に資する。				実 施 日	3月4日・5日・7日
重視事項	1 礼法の徹底				場 所	米子北斗中体育館
	2 正しい姿勢の確立				対 象 者	中学1年生 39名
	3 正しい突き技の反復				教育特性	全員が未経験者
時間計画 及び 実施内容	3月4日	11:55 学習内容の説明 銃剣道の歴史・特性 礼法 木銃の扱い方 構え・直れ・足さばき・突き方				12:45 講評
	3月5日	9:55 振り返り（構え・直れ・足さばき・突き方） 用具装着者に対する突き体験				10:45 講評
	3月7日	13:20 振り返り（構え・直れ・足さばき・突き方）目標物を突く				14:10 講評
実施要領	1 実技実施時の要領 各クラス2列で並び前の列の間で実施する ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 2 説明時の要領 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ● ● ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○					
安全管理	1 生徒の体調チェック 2 体育館の床面の点検・清掃 3 木銃の取り扱い方					
所 見	別 示					



鳥取県立武道館・銃剣道教室での三つの教え

徒は、下から握って肘を伸ばし同時に膝も伸びているので、動きが円滑にならない状況が見られます。また、握る手も小指を伸ばしてコップを持つ感じになるので強い握りができません。普段の生活では握るという行為があまりないようで、力の弱い生徒が多いのを見受けられました。

次に「用具装着者に対する突き体験」です。これは大半の生徒が左手で突きますから突き上げ傾向にあります。また、突き部位を見

て突きますから、目線が下がり、姿勢が前傾します。ここでは背筋を伸ばすことの大切さを指導します。

以上がかいつまんでの指導内容になりますが、遊びの要素を取り入れた「新聞突き」「風船突き」「ボール突き」などのゲームについては授業3コマの中に取り入れて実施しており、生徒からは好評です。

また、私の指導する鳥取県立武道館の銃剣道教室では次の三つの教えを掲げています。

一つ目は「大きな声を出す」、二つ目が「正しい姿勢の確立」、三つ目が「正しい突き技の反復」です。説明してなぜそうする必要があるのかを生徒に納得させます。

しかし授業では時間的に余裕がなく、駆け足授業になる関係で詳細の説明は割愛し、強調したい箇所については反復して説明します。

もともと上手^{うま}くできた生徒は全員の前で紹介し、表彰しています。これについては、感想文にもありますが結構生徒も楽しみにしていますので毎回実施しています。

以上が3コマ分の授業の概要です。失敗と反省の繰り返しではありますが懸命に取り組んでおります。

まとめ

3

米子北斗中学校での授業も6年目になりました。

体育教師との授業の調整については、生徒の皆さんともコミュニケーションが取れますのでやりやすい面がありますが、気を付けなければならぬのは馴れ合いからくる怪我などの不測事態です。気配りしながら緊張感を持って実施したいと思っています。

いまだ目指す理想には程遠いかもしれませんが、「ひと手間」「ひと工夫」「即実行」を念頭に、「分かりやすく」「面白い」授業にすること、そして寝ることを忘れないようにすることが大切ではないかと考えます。そして、「知らないことを知ること」の楽しさ、「できなかったことができるようになる」感激で、より一層の向学心が芽生えるものと思います。そうなれば楽しんで武道授業に取り組んでもらえそうな気がしております。

最終的には、生徒の皆さんの「心身の健やかな成長」につながり、「仲間との輪」が広がり、やりがい有助長するなどの効果をもたらすことができればと願っております。

文部科学省だより

スポーツ庁政策課 教科調査官

関 伸夫

武道の推進

「武道等指導充実・資質向上支援事業」の取組について

令和3年度「武道等指導充実・資質向上支援事業」の中から、徳島県徳島市川内中学校及び富山県氷見市立十三中学校の実践を紹介する。

徳島市川内中学校では、外部指導者と体育担当教員が連携することで、生徒が基本動作を身に付けることができるようにするとともに、伝統的な行動の仕方を習得することなどをねらいとした実践研究を行った。ICTや映像を活用することで、基本技を効率的に理解するとともに、学習の段階に合わせた簡易試合を行うことで、生徒の武道に対する関心が高まった実践例が報告されている。

氷見市立十三中学校では、複数の武道に取り組むことで、生徒が武道に共通した礼法、足さばきなどの基本動作の共通点に気付くことや、相手への敬意を大切にする態度を習得することをねらいとした実践研究を行った。ペア学習やグループ学習を取り入れ、仲間と協力して活動に取り組むなどの学習を通じて、武道で尊重される思いやりの精神や生徒の武道への意欲の高まりが見られた実践例が報告されている。

外部指導者と体育担当教員が連携した相撲の授業及びICTを活用した空手道の授業展開

▼学校名 徳島市川内中学校
(徳島県)
▼実施学年 1年(5学級151名)
▼種目 相撲・空手道
(本事例に係る問い合わせ先)
電話 088・665・3471
メール kawauchi_jh@ign.tcn.ne.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 外部指導者と連携して相撲の歴史や現状を理解させ、相撲に関心を持たせる。
- (2) 外部指導者と体育担当教員が連携して、基本動作を身に付けさせ、伝統的な行動の仕方を習得させる。
- (3) ICTを活用し、映像でわかりやすく説明し、基本技能を習得させる。

2 指導の工夫

- (1) 効果的に指導するための工夫
- ① 蹲踞・塵浄水ちりじょうずといった基本動作や礼法の指導に重点をおいて、相手を敬う心の大切さを理解させる。

せた。外部指導者からも礼法の意味を具体的に説明していただいた。

- ② 中腰の構えを中心にして寄り・押しといった相撲の基本動作を専門的な立場から指導していただいた。

- ③ 手押し相撲・蹲踞相撲・押し相撲など、学習の段階に合わせた簡易試合を行った。

- ④ 空手道では映像資料を活用し、わかりやすく説明した。

- ⑤ かけ声を出すことで、学習意欲の高まりが感じられた。

- (2) 生徒の安全を確保するための工夫

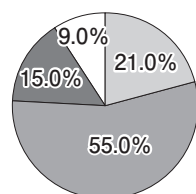
- ① 柔軟運動やストレッチ、受け身運動を毎時間行い、けがの防止に努めた。

- ② 外部指導者と体育担当教員が連携して試合運営などに目を配り、危険が無いよう指導した。

- ③ 土俵がないため体育館に相撲マットを敷き、その周りに体育用のマットを敷きつめ、安全面に配慮した。

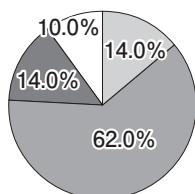
3 生徒の意識、感想、変容など

- ① 2種目の武道(または柔道、剣道、相撲以外の武道)を学習したこと
- で、武道への関心は高まりましたか。



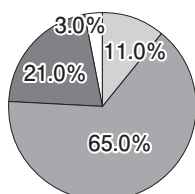
■ 高まった
■ やや高まった
■ あまり高まらなかった
□ 高まらなかった

- ② 2種目の武道(または柔道、剣道、相撲以外の武道)を学習したこと
- で、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。



■ 深まった
■ やや深まった
■ あまり深まらなかった
□ 深まらなかった

- ③ これからも多くの武道種目を学習したいと思いませんか。



■ 思う
■ やや思う
■ あまり思わない
□ 思わない

- ④ 自由意見
- ・ 相撲を知っているが、礼法や成り

立ちについては知らなかった。
・ 見よう見まねで動いていたが、外部指導者の的確なアドバイスによって基本動作を習得できた。
・ 簡易試合を行うことによって、自身の課題を見つけたり、新しい技への関心を持てたりなどの効果があった。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 外部指導者や公開されている動画の丁寧な説明で、生徒たちも相撲に興味を持つことができた。

- ・ 外部指導者の専門的な指導で、基本動作や礼法についてもわかりやすく学習することができた。体育担当教員も外部指導者からアドバイスを受け、相撲の指導法についての知識を深めることができた。

(2) 課題

- ・ 今回の実践を通して、授業をするにあたって、十分な設備が整っていないことが明確となった。土俵やマットなどの場の設定や、簡易廻しなどの備品の確保が課題である。本格的な試合を行うためにも必要であると考えた。

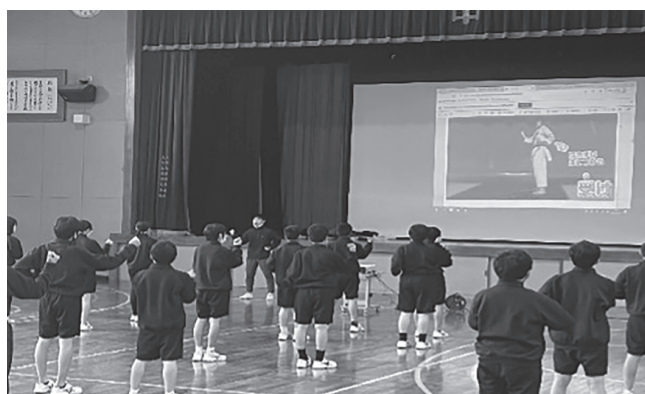
＜授業の様子＞



【中腰の構え】
基本的技能の核となる中腰の構えの練習



【蹲踞・塵浄水・簡易試合】
基本動作の意味や歴史を学習した上での
練習マットを使った簡易試合



【受け】
ICT を使った基本的技能となる受けの練習



【約束組み手】
突きと受けの練習

＜複数種目指導モデル＞ 第1学年（5学級 151名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
種目	オリエンテーション (相撲)	相撲						空手道	
学習の流れ		導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）							
		準備運動			準備運動、基本動作と 受け身の練習			オリエンテーション (空手道)	基本動作 の学習
		基本動作の学習	簡易試合・ 学習のまとめ	基本動作 の学習					
		受け身の学習		押しの 学習	押し・寄 りの学習	押し・寄りを使った 簡易試合	約束組み手		
		中腰の構えの 学習							
		整理（整理運動、本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ）							

剣道・銃剣道の学習を通して、礼儀や基本動作等の共通点に気づき、さらに学びを深める授業の展開

▼学校名 氷見市立十三中学校

(富山県)

▼実施学年 全学年(3学級80名)

▼種目 剣道・銃剣道

(本事例に係る問い合わせ先)

電話 0766・91・1238

メール jusan-jhs@tym.ed.jp

1 実践研究のねらい

(1) 剣道を既習してから銃剣道の授業に取り組むことで、武道に共通した礼儀作法や、足さばき、すり足等の基本動作、「気・剣・体」の一致から残心のある有効打突等の共通点に気付かせる。技の指導においては、面・小手・胴への打突をねらう剣道から、突きのみで攻撃する銃剣道に発展させることで、より速い足さばきや体さばきの必要性、相手への敬意を大切にすることを学習させる。

(2) 外部指導者による指導を通して、多くの方々との触れ合いから社会性を身に付けさせ、今後の生活に生かす。また、ペアやグループ学

習を通して、仲間と協力し合い、共に高め合うことのできる人間関係の構築を目指す。

2 指導の工夫

(1) 効果的に指導するための工夫

① 既習内容を生かした学習

・ 剣道で身に付けた内容を生かし、銃剣道と共通する礼儀作法や基本動作、有効打突等と関連付けて学習する。また、相違する点について新たに学ぶことで、銃剣道の歴史や特性を理解する。

② ペアやグループ学習を取り入れた学習

・ 友達と協力して活動に取り組み、武道で尊重されている思いやりの精神を大切にする。

(2) 生徒の安全を確保するための工夫

① 新型コロナウイルス感染予防対策

- ・ 竹刀、木銃、防具等を使用した後、除菌シートでの消毒やマスクを着用しての活動、体育館の換気等の注意をほらう。

② けが防止のための道具点検や健康観察の徹底

- ・ 竹刀や木銃、防具等に不備がないか授業前後に確認したり、授業開始時や終了後に生徒の健康観察やけがの有無を確認したりして、安全に留意する。また、道具の正しい扱い方を指導し、危険な動作や禁じ技を行わないよう徹底する。

3 生徒の意識、感想、変容など

- ・ 礼に始まり礼で終わることや相手を敬う気持ち、素直な心をもつことなど、心の面でも成長することができた。教わったことを、日常でも意識したい。

- ・ 講師の方の試合を観ることで、速い動きや打突の音、声の大きさに迫力があり、鳥肌が立つほど気迫を感じた。

- ・ 銃剣道の技は全てが突き技なので、恐怖心に勝たなければ上達できないと感じた。そして優しく突くのではなく、思い切り突いて寸止めをすることで相手も自分も上達できるようになる。そのためにお互いに感謝し合い、礼を大切に

したいと思った。

- ・ 武道の「守・破・離」という言葉を初めて聞き、心を鍛える大切な内容だと感じたので、部活動でも意識したい。

- ・ 講師の方が優しく教えてくださり、安心して取り組むことができた。実際に名前を呼んでいたことがことで、やりやすさを感じ、また来年もやりたいと思った。

- ・ 新しい武道を経験し新鮮さを感じることができたので、銃剣道の伝統や面白さを多くの人に伝えていくことが大切だと思った。

- ・ 剣道も銃剣道も足さばきや体幹が重要であり、「気・剣・体」を一致させ、残心がないと有効打突にならないということが共通していたため、非常に理解しやすく、同じ武道の精神で行われていると感じた。

4 成果

- ・ 剣道と銃剣道の礼儀作法は多少の違いはあるけれど、両方を学習することで相手を敬う気持ちが非常に重要だということを、さらに実感することができた。

・実際に模範試合を観戦することで、映像とは違った臨場感や迫力を体験することができた。また、選手が礼儀作法を行う美しい所作や審判が瞬時に判定する判断力等にも銃剣道の魅力を感じることができた。

・ペアやグループ活動を通して、友達と協力し合い共に成長することが大切であるということを学ぶことができた。

・生徒たちは外部指導者の方々と触れ合いを通して、現役やOBの自衛官の方が武術としてトレーニングされているだけではなく、銃剣道の楽しさを多くの方々に普及するために活動されていることを知り、初めて見聞きする世界に大きな影響を受け、人の信念の強さや生き方を学ぶことができた。

・講師の方々に他方から来ていただき、銃剣道に関する専門的知識だけでなく、現在の銃剣道の現状や活動について話を聞くことができ、銃剣道の伝統や魅力の普及活動をされている方々の熱意を感じ、教員としても心を揺さぶられる素晴らしい経験となった。

<授業の様子>



【新聞を活用した突きの練習】

新聞紙の中心を目がけて小さな穴を打突できるように、安定した姿勢と足さばきで正しい突き技を習得した。



【ペアによる話し合い活動】

ペアで掛かり稽古をした後、互いによかった点や改善点等を伝え合い、課題解決の手だてにしたり新たな課題を見付けたりすることができた。

<複数種目指導モデル> 全学年（3学級 80 名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種目	剣道										銃剣道	
学習の流れ	導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）、準備運動											
	座礼 立礼	リズム剣道（基本動作の反復練習）									・ 銃剣道の 歴史・特性 ・ 礼法 ・ 構え ・ 木銃の扱い 方 ・ 模範試合の 観戦	・ 足さばき ・ 突き方 ・ 付いた姿勢 ・ 基本の交差 の直突 ・ 目標物を 突く
	防具の 付け方 しまい方	足さばき	基本	目標物を	切り	引き技	応じ技	掛かり稽古				
	構え方 間合い 素振り	体さばき	打突	打つ	返し	払い技	試合の 進め方	練習試合				

『中学校武道必修化指導書』

武道9団体と日本武道館で組織する日本武道協議会では、全国の中学校で「安全で、楽しく、効果の上がる」武道授業が展開されるよう、『中学校武道必修化指導書』（全10分冊・DVD3巻付）を、設立40周年記念事業として平成29年5月に刊行しました。そして、「武道9種目の周知徹底」と「中学校武道必修化の充実」を目的に、全国1万余校の中学校と全都道府県市区町村教育委員会、全国主要公立図書館等へ無償贈呈いたしました。

本書は、武道の歴史や特性を解説した「武道編」と、「柔道」「剣道」「弓道」「相撲」「空手道」「合気道」「少林寺拳法」「なぎなた」「銃剣道」の武道種目ごとに分かれており、付属のDVDとあわせて、各種目の歴史や特性、指導計画例や学習指導法の要点などがわかりやすくまとめた、学校現場で役立つ内容となっています。

本協議会では、「全国武道指導者研修会」や「地域社会武道指導者研修会（中学校武道必修化特化型）」の参加者に無償で贈呈し、本書の学校現場での活用促進を図っています。



目次

◆武道 一歴史と特性—

- ◇1章 「武」の字の意味
- ◇2章 古代における武技
- ◇3章 武士の出現と武術
- ◇4章 江戸幕府と近世武芸
- ◇5章 近代武道の形成
- ◇6章 戦後の武道禁止と復活
- ◇7章 武道の現代的意義

◆柔道

- ◇1章 概論
- ◇2章 指導計画
- ◇3章 指導の実際
- ◇4章 アクティブ・ラーニング
- ◇5章 評価
- ◇6章 柔道のすすめ

◆剣道

- ◇1章 概論
- ◇2章 学習指導要領の内容（剣道）
- ◇3章 指導の実際
- ◇4章 安全管理・安全指導について
- ◇5章 中学校1・2学年 剣道授業「学習計画」の例
- ◇6章 剣道のすすめ

◆弓道

- ◇1章 楽しい弓道
- ◇2章 指導の実際
- ◇3章 弓道のすすめ
- ◇4章 資料編

◆相撲

- ◇1章 相撲の魅力
- ◇2章 指導計画
- ◇3章 指導の実際
- ◇4章 相撲のすすめ

◆空手道

- ◇1章 空手道の特性とねらい
- ◇2章 指導計画と学習指導の展開
- ◇3章 学習指導の展開
- ◇4章 空手道のすすめ
- ◇5章 礼法／基本技術とその練習法

◆合気道

- ◇1章 合気道の概論
- ◇2章 合気道の授業づくり
- ◇3章 合気道の指導計画
- ◇4章 具体的指導内容
- ◇5章 合気道のすすめ

◆少林寺拳法

- ◇1章 少林寺拳法の歴史と特性
- ◇2章 指導内容
- ◇3章 授業の特性と指導の留意点
- ◇4章 実践例
- ◇5章 資料
- ◇6章 少林寺拳法のすすめ

◆なぎなた

- ◇1章 なぎなたの特性
- ◇2章 内容の取り扱い
- ◇3章 単元の計画
- ◇4章 1年生指導案 10時間の例
- ◇5章 資料編
- ◇6章 なぎなたのすすめ

◆銃剣道

- ◇1章 概論
- ◇2章 指導計画
- ◇3章 指導の実際
- ◇4章 銃剣道の形
- ◇5章 銃剣道のすすめ

◆映像集

- ◇第1巻 武道・柔道・剣道
- ◇第2巻 弓道・相撲・空手道
- ◇第3巻 合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道

日本武道館ホームページに「中学校武道必修化特設ページ」を開設しています。武道授業の実践に役立つ中学校武道必修化関連情報を取りまとめているので、是非ご活用ください。右からアクセスできます。 <<https://www.nipponbudokan.or.jp/gakkobudo>>



文部科学省だより

スポーツ庁政策課 教科調査官

関 伸夫

武道の推進

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

スポーツ庁では、平成20年度から、国公私立の小学校5年生全員及び中学校2年生全員を対象に、全国体力・運動能力、運動習慣等調査を実施しています（平成23年度、令和2年度は調査を中止）。昨年12月末に令和5年度調査の結果を公表しましたので、本稿では主な内容について報告します。

調査の概要

○実技テスト調査（8項目）

テスト項目								
小学校 5年生	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20mシャトルラン※1	50m走	立ち幅 とび	ソフトボール 投げ
中学校 2年生					20mシャトルランか 持久走※2の選択			ハンドボール 投げ

※1 往復持久走（一定の間隔で鳴る電子音に従って20mを走り、折り返し回数を測定）

※2 男子は1500m、女子は1000m

評価基準表

	A	B	C	D	E
小学校5年生	65点以上	58～64点	50～57点	42～49点	41点以下
中学校2年生	57点以上	47～56点	37～46点	27～36点	26点以下

※各実技テストの結果を10点満点で換算し、合計80点満点で上記基準表に基づき、A～Eの評価を判定

○児童生徒質問紙調査

1週間の総運動時間、体格、生活習慣、運動やスポーツに対する意識等

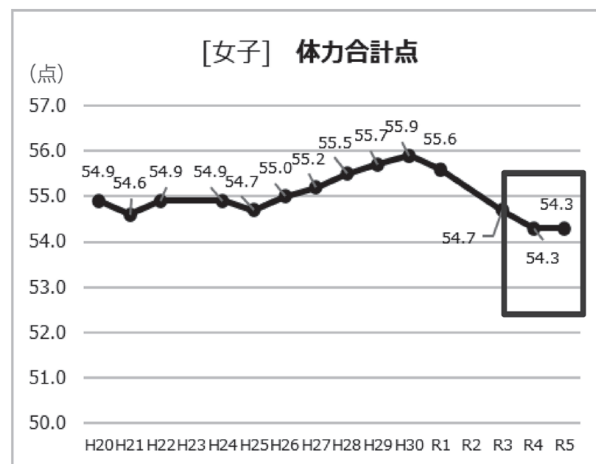
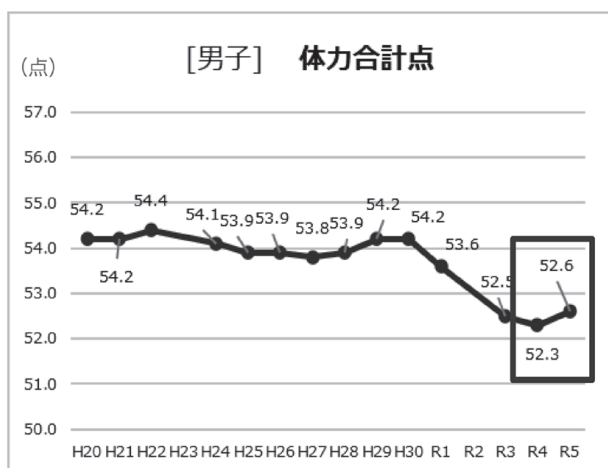
調査の結果概要

1 児童生徒の体力の状況

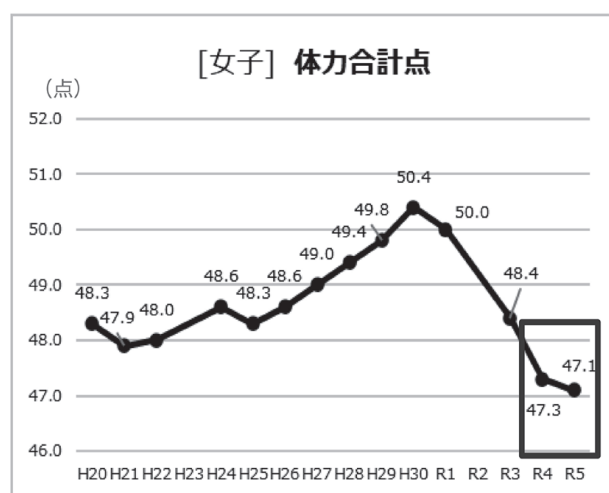
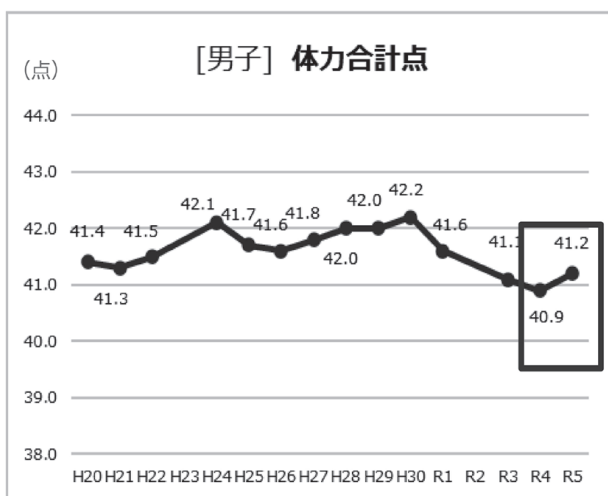
体力合計点の状況

体力合計点については、令和4年度調査との比較では回復基調であるが、コロナ以前の水準には至っていない

(小学校)



(中学校)



2 児童生徒の運動習慣・生活習慣・運動意識の状況

(1) 令和4年度・令和元年度との比較

- ・体育の授業以外の運動時間は、減少傾向が続いている。
- ・運動意識については、小・中学校男子はコロナ前より高まっているが、小・中学校女子は戻っていない。
- ・肥満の割合、睡眠時間は、令和4年度に比べ顕著な回復傾向がみられる。コロナ以前の水準には至っていないが、中学校男子の睡眠時間はコロナ以前を上回った。
- ・スクリーンタイムは、コロナ前から引き続き増加が続いている。

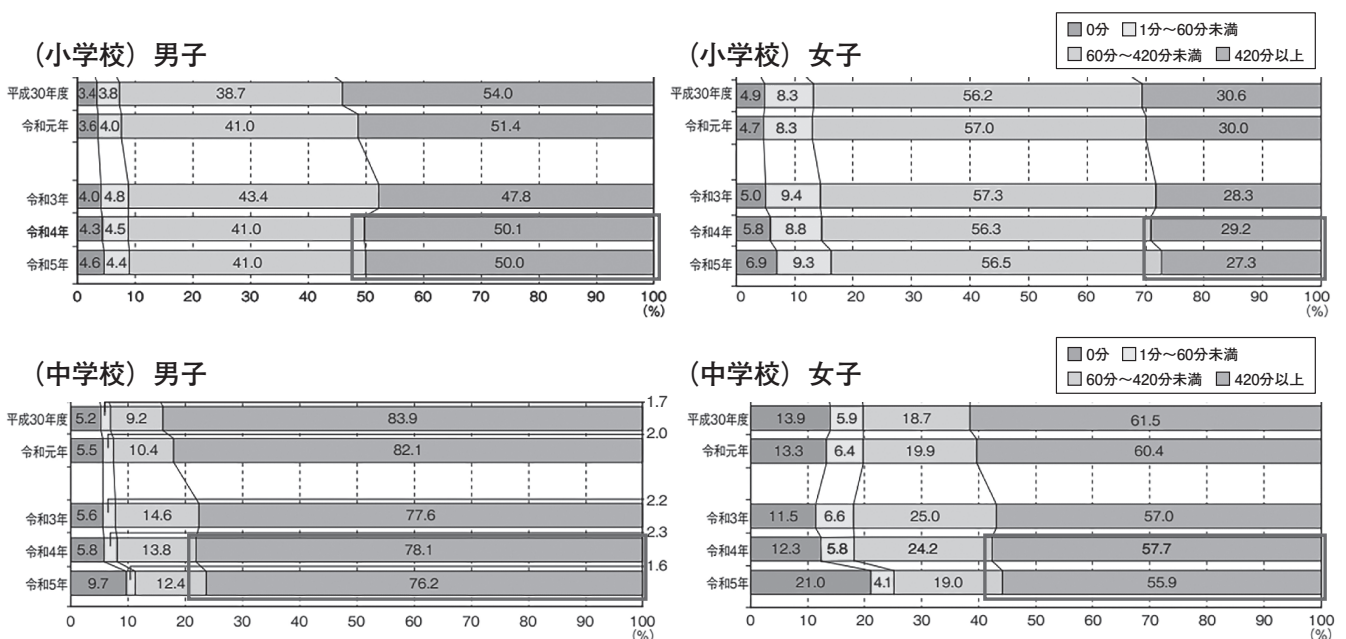
令和4年度との比較									
		小学校男子		小学校女子		中学校男子		中学校女子	
運動習慣	総運動時間 420 分以上 (%)	- 0.1	↘	- 1.9	↘	- 1.9	↘	- 1.8	↘
運動意識	「運動やスポーツをすることが好き」 (%)	+ 2.3	↗	- 0.4	↘	+ 1.3	↗	- 1.1	↘
	「体育が楽しい」 (%)	+ 1.3	↗	- 0.3	↘	- 3.6	↘	- 3.4	↘
生活習慣	肥満 (%)	- 0.8	↘	- 0.1	↘	- 0.9	↘	- 0.5	↘
	朝食を「毎日食べる」 (%)	- 1.5	↘	- 1.7	↘	- 0.1	↘	- 0.6	↘
	睡眠時間「8 時間以上」 (%)	+ 0.9	↗	+ 0.8	↗	+ 1.4	↗	+ 1.4	↗
	スクリーンタイム「4 時間以上」 (%)	+ 0.9	↗	+ 1.6	↗	+ 0.8	↗	+ 1.6	↗

令和元年度との比較									
		小学校男子		小学校女子		中学校男子		中学校女子	
運動習慣	総運動時間 420 分以上 (%)	- 1.4	↘	- 2.7	↘	- 5.9	↘	- 4.5	↘
運動意識	「運動やスポーツをすることが好き」 (%)	+ 0.9	↗	- 1.0	↘	+ 0.5	↗	- 3.8	↘
	「体育が楽しい」 (%)	+ 0.9	↗	- 1.1	↘	+ 0.8	↗	- 2.2	↘
生活習慣	肥満 (%)	+ 2.6	↗	+ 1.6	↗	+ 1.9	↗	+ 0.4	↗
	朝食を「毎日食べる」 (%)	- 1.4	↘	- 2.9	↘	- 1.6	↘	- 5.3	↘
	睡眠時間「8 時間以上」 (%)	- 0.4	↘	- 2.5	↘	+ 0.8	↗	- 1.0	↘
	スクリーンタイム「4 時間以上」 (%)	+ 3.3	↗	+ 6.9	↗	+ 9.0	↗	+ 9.3	↗

(2) 児童生徒の運動時間（体育の授業を除く）

1 週間の総運動時間が 420 分以上の割合は、小・中学校男女ともに、令和4年度よりも低下した。

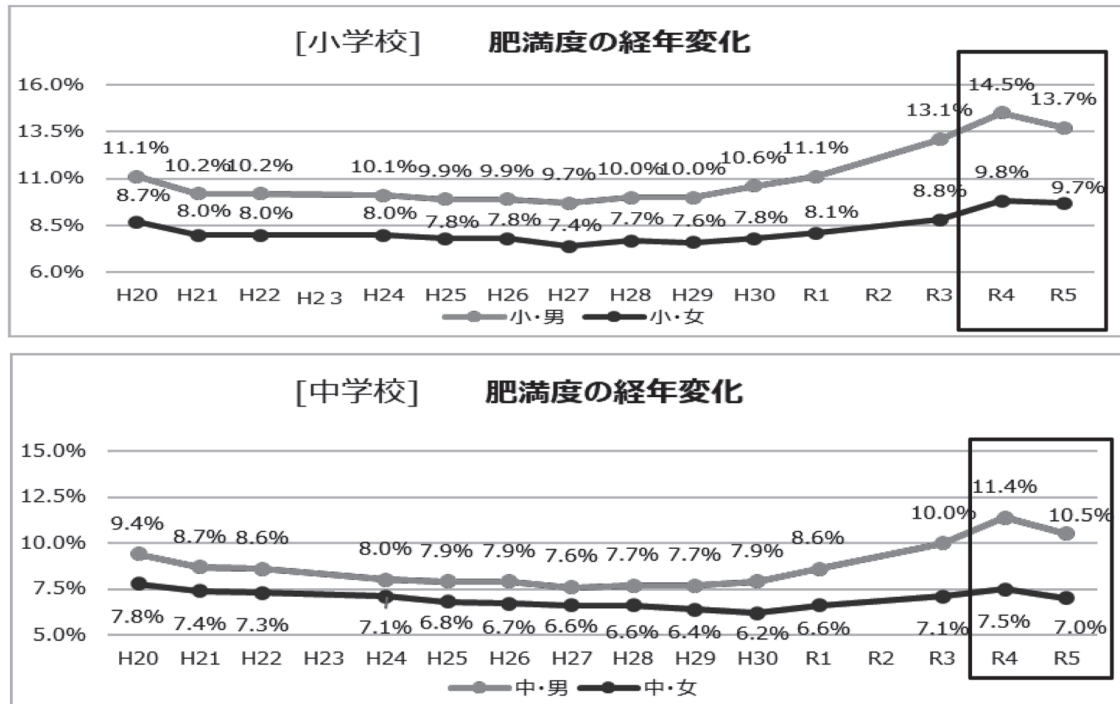
○ 1 週間の総運動時間の経年変化



(3) 児童生徒の体格の状況

肥満の割合は、小・中学校男女ともに令和4年度よりも低下した。

○肥満である児童生徒の割合

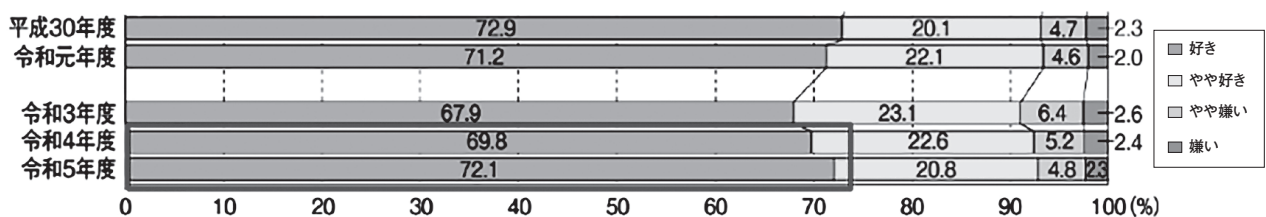


(4) 運動やスポーツに対する意識

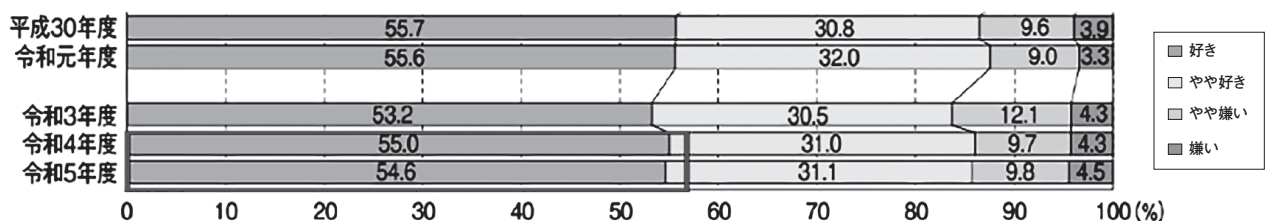
「運動が好き」と答えた児童生徒は令和4年度との比較で男子は増加し、女子は低下している。

○「運動やスポーツをすることが好き」と答えた児童生徒の割合

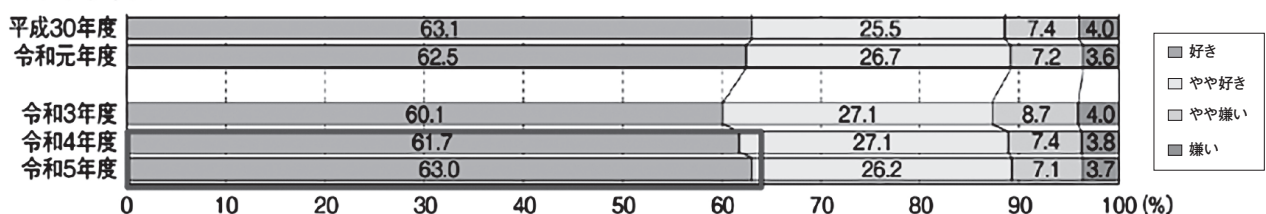
(小学校男子)



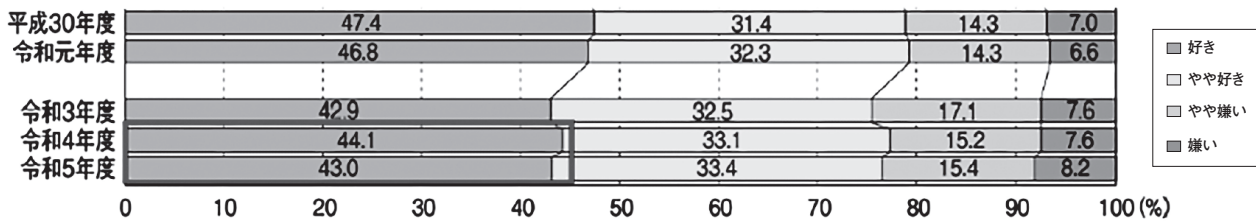
(小学校女子)



(中学校男子)



(中学校女子)



【まとめ】

令和5年度調査における体力合計点は、児童生徒、男女で様相に若干の違いはあるものの、令和4年度との比較では、全体として横ばい、向上傾向であったと言えます。これは、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、感染拡大防止に努めながら、教師が日頃から運動やスポーツをすることの大切さを伝え、児童生徒が工夫しながら運動を継続してきたこと、また令和4年度には行動制限が徐々に緩和され、児童生徒の運動の実施も元に戻ってきたことが要因であると推測されます。新型コロナウイルス感染症蔓延の影響からの脱却、回復を超えて、子供たちの運動習慣の本質的な改善、体力の向上へとつなげていかなければなりません。

令和4年3月に策定した第3期スポーツ基本計画では、子供・若者の日常的な運動習慣の確立と体力向上を掲げています。スポーツ庁としては、今後も児童生徒が主体的に体を動かしたり、運動の楽しさや喜びを味わったりすることができるような学校、家庭、地域が連携した取組を支援・促進していくこととしています。

子供の運動習慣形成と体力向上に向けた取組について

令和5年12月



- 令和元年度から続く子供の体力の低下傾向に見られた改善の兆しを、運動習慣の本質的な改善につなげることが必要
- いわゆる「ゴールデンエイジ」（概ね幼児期から中学生まで）の運動習慣は、生涯にわたる体力・運動能力等の基盤となる極めて重要な要素であることから、**生活の中に運動(習慣)を取り入れ定着させるための取組**を進めていくことが必要
- 学校・家庭・地域における運動機会を確保**し、子供の**運動習慣の形成や体力向上**につなげられるよう以下の取組を実施

地 域

1. 幼児期における運動習慣形成の取組を強化

- ① 毎日合計60分以上、楽しく体を動かすことを目安として示した「**幼児期運動指針**」や、望ましい動きや能力を獲得するための運動プログラム「**アクティブチャイルドプログラム**」の周知・普及
- ② 幼児期からの**運動遊びの普及**や、**保護者等の行動変容に関する調査分析の実施**

2. 子供のニーズに応じた多様なスポーツ環境の整備を促進

競技・大会志向の特定種目の活動だけでなく、アーバンスポーツ、レクリエーション、体験型キャンプ、パラスポーツなど、従来の部活動では対応しきれていない、子供のニーズに応じた**多様なスポーツ機会を提供**（地域クラブ活動の運営団体等の整備、指導者の確保、デジタル動画の活用、コミュニティ・スクール等の仕組みの活用等）

学 校

3. 体育授業における児童生徒の運動意欲向上

- ① **体育授業へのアスリートの派遣**を通じた児童生徒の運動意欲を喚起する教育手法の普及
- ② **GIGAスクール環境下における体育活動の充実**に向けた、一人一台端末を活用した指導方法の研究・成果の普及

4. 授業以外の児童生徒の運動時間を増加

小・中学校における時間割例を含めた、**業前業間や放課後等**における体力向上の**取組事例を周知**

家 庭

5. 家庭で運動を実践するきっかけを提供

学校や地域で身に付けた運動習慣等を家庭でも実践するきっかけとして、室伏長官が考案・実演する動画を作成。幅広いプロモーションを実施。
 ・**身体診断「セルフチェック」動画をe-learning化**
 ・**「力を引き出す」ウォーミングアップ動画**を作成・公表

※ この他、今後の対策に向けた幅広い分析・研究に生かすため、全国体力・運動能力、運動習慣等調査データの提供制度を開始予定（令和6年から提供開始）

〔参考資料〕

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書（スポーツ庁）

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/kodomo/zencyo/1411922_00007.html

特別寄稿

学校武道

授業協力者に求められる役割

福岡教育大学 大学院教育学研究科 教授

本多 壮太郎

授業協力者は「誰に、何を、どのように教えるか」ではなく、「誰が、何を、どのように学ぶか」の視点に基づいて、教師とともに授業の計画、実践、改善に携わっていくことが大切である。本稿では、生徒が期待感をもって授業に臨み、安心感をもって活動に取り組み、活動を通して互いに共感する授業を展開していくために、授業協力者にはどのような役割が求められるのかについて述べていきたい。



「誰に、何を、どのように教えるか」ではなく、
「誰が、何を、どのように学ぶか」の視点を

図1は、学校教育において育成すべき資質・能力である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱を示したものである。「何を理解しているか、何ができるか」「理解していること・できることをどう使うか」「どのように社会・世界と関

わり、よりよい人生を送るか」という文言からもわかるように、児童・生徒を隠れ主語として、授業で学んだことが未来へつながっていく資質・能力の育成が目指されている。これに伴い、各教科・領域等での資質・能力の育成に向けたアプローチは、「教師や授業協力者が、誰に、何を、どのように教えるか」ではなく、「児童・生徒が、何を、どのように学ぶか」の視点に基づいて行われることが大切である。

中学校の武道授業の場合、武道を初めて学ぶ生徒がほとんどであり、

不安を抱えている生徒も少なくない。授業協力者には、生徒が武道の醍醐味を存分に味わえるように、教師とともに生徒の実態や心情に寄り添う姿（役割）が求められる。以下はその具体例の幾つかである。

生徒が期待感・安心感をもって臨み、活動に取り組む授業に向けて

生徒が感じる不安の要因には、痛い思いや怖い思いをするのではない

かということに加えて、授業で何に取り組むのか、自分はそれについていけるのかといったものがあると考えられる。ここでは誌面の都合上、後者に着目して、それらの解消を図る「期待感」と「安心感」について述べてみたい。

授業協力者が教師から単元計画および毎時の授業について相談を受ける場合、内容とともにそれらをどのように生徒と共有し、生徒が学びや取り組みについての見通しをもつことができようにするのか、教師とその具体化に向けた話し合いを行う

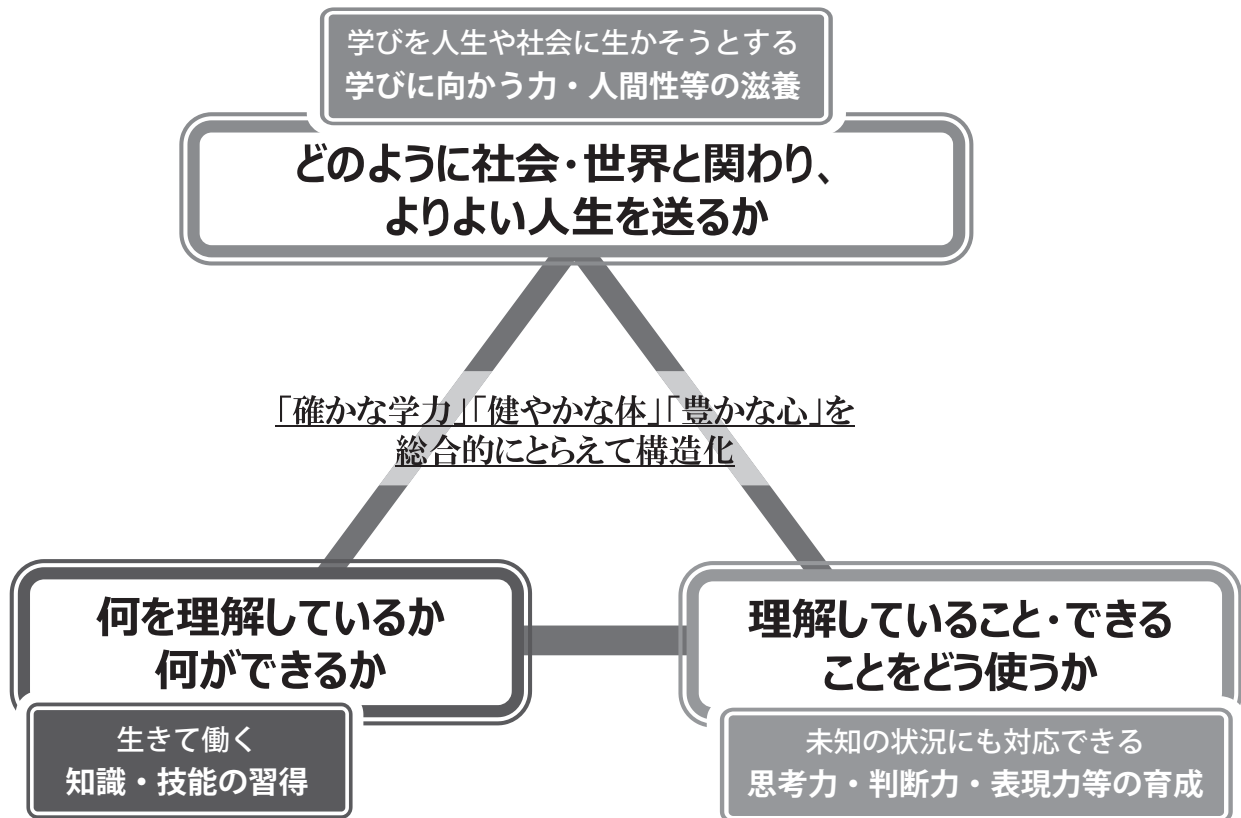


図1・学校教育において育成すべき三つの柱



写真1・生徒が授業に「期待感」をもつための、
授業協力者と教師による話し合い

必要がある。これにより教師と授業協力者が、「情報提供者・説明者」と「示範者」といった役割を果たす中で、「どのような生徒が、どのような見通しをもって、何を、どのように学んでいくか」といった授業の流れをしっかりとイメージすることができ、生徒自身も学びや取り組みへの見通しをもつことで、授業や自分自身に対する期待感が生じるはずだ。

実際の授業では、全ての生徒が右肩上がりに知識や基本動作、基本となる技を習得していくわけではな

い。それらの活用に時間を要する場合も多々ある。伝統的な行動の仕方といった学びに向かう力、人間性等の内容の理解や意義に基づいた行動の表出にも時間がかかるのが当然である。故に、教師と授業協力者は、単元を通して到達したいことと、その過程での段階的ゴールの区別をしっかりとつけておくことが大切となる。さらに、生徒のつまずきの予測や改善方法を含めた計画と実践が必要となる。また、授業協力者には、つまずいている生徒に、習得に時間がかかっても問題ないことを伝える、できているところを見付けて褒める、生徒が問題（何につまずいているのか）だけでなく、課題（解決・改善するにはどうすればいいのか）に気付くようにしていく「分析者」「称賛者」「パーソナルコーチ」としての役割が期待される。生徒がのびのびと活動するには、生徒が安心感をもって粘り強く試行

と思考を繰り返していける配慮が求められる。

生徒が活動への取り組みを通して共感を抱く授業に向けて

武道では自分一人で相手と対峙し、「投げたい・投げさせたくない」「打ちたい・打たせたくない」「押したい・押させたくない」といった関係でのやりとりをしていくことが求められる。故に武道では、結果に伴う力量の違いがはつきりと表れやす



写真2・授業では全ての生徒が右肩上がりに基本動作を習得していくわけではない



写真3・生徒が安心感をもって試行と思考を繰り返していける配慮が求められる



写真4・教師や授業協力者は共生の学びに生徒を導く「ガイド」である

い。だからこそ教師や授業協力者は、生徒が「攻防や試合とは優劣のつけ合いではなく、『試し合い』（試合）である」ことを認識し、試し合った内容を互いに共有しながら共感し、「二人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとすることや、大切にしようとする」と（文部科学省、2018、152頁、163頁）の共生の学びに生徒を導いていく教材の工夫や「ガイド」としての役割が求められる。球技系領域では、対戦する両チームの力量差に応じて修正ルールの提案や話し合いを行い、合意

された修正ルールのもとでの勝敗未確定なゲームを本気を出し合って楽しむとともに、仲間の多様性を包摂し、互恵性のある学びを実現しようとする「アダプテーション・ゲーム」の導入が進んでいる（村瀬ほか、2021・梅澤、2020）。本多ほか（2024）は剣道版アダプテーション・ゲームの教材開発を行い、生徒が課題志向的に「試し合い、高め合う」授業の展開例と教師の役割について示している。ご参照いただきたい。

終わりに

授業協力者は、教師とともに「誰が、何を、どのように学ぶか」の視点をもち、生徒の学びのよき伴走者として寄り添う姿が求められる。本稿がその寄り添い方をイメージするうえで少しでも役に立てば幸いである。

【参考文献】

- 本多壮太郎・佐藤皓也・山田弥香（2024）「アダプテーションマッチ」を取り入れた剣道授業に関する研究…中学校第3学年を対象とした実践を通して、武道学研究、56（2）…133～148。
- 文部科学省（2018）中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説保健体育編、東山書房…京都。
- 村瀬浩二・古田祥子…体育授業でのアダプテーション・ゲームにおける学び…中学校におけるバスケットボール単元での実践、体育学研究、66…391～407、2022。
- 梅澤秋久…豊かなスポーツライフに繋がるアダプテーション・ゲームの提案、梅澤秋久・苦野一徳、真正の「共生体育」をつくる、大修館書店、東京…156～165、2020。



ふるさと屋久島で 銃剣道を広めるために

鹿児島県銃剣道連盟
事務局次長

渡邊 竜聖



今年4月、私の母校である鹿児島県立屋久島高校に教員として帰ってきた。屋久島は本土からフェリーで4時間、高速船で2時間、飛行機では35分で行ける世界自然遺産の島で、多くの観光客が訪れる。人口は1万1千人余りで、全日制高校は1校のみ、約200名の生徒が在籍する。私と銃剣道の出会いは平成5年8月、小学2年の頃だ。父が屋久島高校の生徒を連れて国体九州ブロック大会銃剣道競技の監督として出場し、私は応援のため会場に行った。他県の選手が「将来、銃剣道をするなら俺みたいに髪の毛を短く切った方がいいよ」と私の頭に手をおき、声をかけてくれたことを覚えている。

高校生になり、大人に交じって地域対抗で行われる県民体育大会の選手として出場するようになった。当時の私は、銃剣道に魅力を感じるも、周囲に同年代で銃剣道をやっている仲間がないことで心底楽しむことができなかった。

高校卒業後は本土の大学に進学し教員になった。銃剣道の指導者になるよう勧められ、これまで以上に銃剣道に関わる機会が増えた。横の

つながりもでき、銃剣道が一層楽しくなった。26歳の時、私は初めて公式戦で勝つことができた。なんとも言えない喜びを味わった。

前任校の霧島市立国分中央高校では鹿児島県唯一の銃剣道部を立ち上げ、15名の選手を送り出した。選手の強化以外にも、同年代や、卒業生と剣を交える場の環境づくりを意識した。昨年度は全国高校生大会の団体優勝、国体3位と、これ以上ない成果を得たが、選手たちには、銃剣道を通して人間形成を図ることが最大の目標であることを言い続けてきた。私が去った今も、新入生部員から80代の範士の先生まで一緒に銃剣道の道を歩んでいる。

今でこそインターネットで簡単に情報が手に入る時代になったが、父は情報の少ない島で半世紀以上、銃剣道や剣道、空手を続けてきた。本土で多くの学びを経験して屋久島に帰ってきた今、父の偉大さを改めて実感している。

屋久島高校では、男女各1名の剣道部顧問となった。初めて武道場に行くと、鏡に向かって黙々と竹刀を振るキャプテンの後ろ姿があり、

私はしばらくその様子に見惚れた。師がおらずとも、武道の理念である心技体を一体として鍛え、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養う人間形成の道を歩む姿がそこにあったからだ。高校総体県予選が終わり、キャプテンは引退し、男子生徒1名になった。初段の男子生徒に剣道を教えてもらいながら、日替わりで銃剣道を私が教えている。大会に出て勝つことだけが、武道の進むべき道ではない。私たち指導者は、どのような場所であっても、環境をつくり、年齢に関係なく人間形成の道を一緒になって歩み続けることが大切だと思う。現在、屋久島では定期的に銃剣道の稽古をしている場所はないが、地域の人たちと一緒に銃剣道を通して成長する場をつくっていききたい。



令和5年全国高校生大会優勝時の写真。筆者は後列左

武道人の肖像

写真・文 たかはし じゅんいち

第9回 御山 昇



おんやま・のぼる
1952（昭和27）年北海道生まれ、北海道剣道選手権大会3連覇（1995～97年）。現在は、千葉県剣道連盟会長（2018年～）、全日本剣道連盟理事（19年～）を務める。剣道範士八段。

長身で眼光鋭い銃剣道の御山昇氏にお話を伺った。

御山氏は昭和45（1970）年、18歳の時に陸上自衛隊に入隊し、銃剣道に出会った。「昭和50年くらいから10年ほど、夜間に日本武道館で行った連盟の先生たちとの稽古が自分を強くしてくれました。平成7（1995）年、

全日本銃剣道選手権大会の決勝で前年に敗れた佐藤亨選手に勝って優勝したことがその後の3連覇に繋がったと思っています」。御山氏は同大会で前人未到の3連覇を達成、国体でも2回優勝し銃剣道の歴史に名前を刻んだ。

続けて、「そして日本全国に師や友人、酒を一緒に飲む仲間ができたこと

が銃剣道をやり続けてきたことの喜び。佐藤亨範士とも今は酒を酌み交わす仲です」と笑った。銃剣道については「突く、打つ、払う、かわす、押すと動作は単純です。だからこそ奥が深い。試合では、自分の体勢を崩さず、常に相手を超える状態を保ち、試合の中でできる一回あるかないかの瞬間を突けるかがポイント。そのため正しい構え、基本を稽古することが重要です」と語気を強めた。

大切に行っている言葉は「^{さえ}刃」。際立つて鮮やかという意味だ。氏の銃剣道が「出来上がった状態」がこの言葉だ。銃剣道は技を磨くだけでなく、理合一致させ、理も極めてこそ、刃え渡る。

最後に「自分がもつと学んで能力を上げ、銃剣道界全体を強くしていきたい」と語った。氏のひととき鮮やかな剣が銃剣道界の未来を明るく照らす。

柳山昇

牙



武道人の肖像

写真・文 たかはし じゅんいち

第19回 山口あや子



やまぐち・あやこ
1979（昭和54）年、
福島県いわき市生
まれ。1999（平成
11）年、自衛隊入隊。
2020（令和2）年、
A級審判員取得。

女子銃剣道競技の第一人者で、自衛官の山口あや子先生にお話を伺った。

銃剣道は、明治初期にヨーロッパの銃術を基調とし、日本の伝統武術である槍術と剣術の理論を組み合わせて創られたそうだ。

小さい頃からずっとしていた剣道を続けられるからと自衛官になった山口先生は、自衛官の兄から銃剣道をやってみないかと誘われた。まだ女性競技人口の少ない銃剣道なら、日本一になれるかもしれないと始めてみた。剣道で培った動体視力、間合い、足捌き^{さば}を武器にメキメキと上達した。印象に残った試合を聞くと、全日本大会で2回準優勝になった時の話をしてくれた。

決勝で気持ちの弱さからいずれも負けたのだ。精神を鍛え、「絶対勝つ」という強い気持ちを保つことの重要性を悟ったという。

銃剣道の修行から「礼に始まり礼に終わる」という礼節、相手や師を敬う気持ちを学んだ。銃剣道のおかげで全国に仲間ができ、その輪は海外にも広がった。「剣を交えることで相手と深いところまで分かり合えるんです」。海外で普及活動をする、いろいろな武道をやっている方が多いのだが、銃剣道はシンプルな技で競い合うからと、人気が高いそうだ。

今後の目標は、銃剣道では八段位の取得、短剣道では全日本大会3連覇を目指しているそうだ。さらに後輩の育成、海外への普及活動と、山口先生の銃剣道に対する夢はまだまだ続く。



私の修業時代

47

全日本銃剣道連盟関東地区ブロック指導員
千葉県銃剣道連盟理事長

小川 功

20歳の春、桜舞い散る日本武道館で初めて見る全日本銃剣道優勝大会。選手たちの野武士を彷彿^{ほうふつ}させるような迫力と、試合における木銃と体が一体化した鋭い動きに身震いしながら見入っていました。もっと強くなりたい、上手^{うま}くなりたいと願い、一生懸命駆け抜けた46年間。いまだ道半ばですが、山あり谷ありの銃剣道人生を、憧れが目標となり人縁にも恵まれ、乗り越えることができました。

銃剣道との出会い

「初降下、二降下、三降下、四降下、開傘点検、異状なし！」

憧れの落下傘部隊に配属され、5回の降下を無事終了し、念願の空挺隊員となりました。部隊にもやっと慣れてきた頃の3月中旬、突然上官から「おまえは、4月から銃剣道訓練隊に行つてこい」との命令がありました。体は丈夫でしたが、それほど器用でもない私の「辛抱の銃剣道人生」のスタートでした。

基本技の特に足捌^{さば}きが苦手で、500円玉ぐらいのまめをつくりながら必死になつて練習しました。当然、練習試合などでも勝てるわけはありませんでしたが、それでも、良き同僚に恵まれ、何とか辞めずに続けることができました。1年を過ぎる頃には体力もつき、徐々に練習試合で勝てるようになっていきました。

勢先攻
行決断
不屈不撓

光無量



猛稽古に明け暮れた第一空挺団の道場で、精鋭ぞろいの同僚たち。後列右端が石田一二先生。同右から3人目が筆者

師の教え

私は3人の監督から銃剣道、自衛隊での職務、そして人生のすべてを教えていただきました。

初めは、石田^{かつじ}一二監督です。その当時

の第一空挺団は「精鋭無比」を合言葉に、団長が「死んでも勝て」と指導されるほど、勝負に対する執念は尋常ではないものでした。当然、銃剣道訓練隊の石田監督の指導も尋常ではありませんでした。

全日本優勝大会前の部隊内での強化合宿では、予告なしの真夜中2時に起床

し、懸かり稽古3分間を5セット実施するなど猛稽古でした。けれど、やればできるものです。その年の大会結果は3位

でした。「結果が問われる男の仕事」。必勝の信念を植え付けていただきました。

次に作間優一監督です。特に、戦い方を教えていただきました。

作間監督は、長期的に計画を立て、準備から大会本番までの「心・技・体」のつくり方を指導し、必ず勝利を獲得する監督でした。絶妙なのは個人指導の上手さで、「真昼の決闘」「夕日の決闘」などと趣向を凝らし、毎回時・場所・技を変え、個人の能力を伸ばしてくれました。

プロフィール

小川 功

(おがわ・いさお)



昭和32(1957)年、茨城県出身。51年陸上自衛隊に入隊。以後、第一空挺団普通科群、第一教育団、第一空挺団第二普通科大隊。平成23年陸上自衛隊を定年退官。競技・指導歴は、全日本青少年銃剣道大会団体(自衛官第1・2部)優勝、全日本銃剣道優勝大会団体(防衛庁第1部)準優勝・第3位など。第一空挺団銃剣道部助教・監督を務める。現在、全日本銃剣道連盟関東地区ブロック指導員・競技力向上委員・国際普及委員、千葉県銃剣道連盟理事長を務める。銃剣道範士八段・短剣道範士八段。



第25回全日本青少年銃剣道大会・団体（自衛官第1部）優勝（平成6年）。
後列右端が作間優一先生、前列左端が御山昇先生、同左から2人目が筆者



第43回全日本銃剣道優勝大会・団体（防衛庁第1部）準優勝（平成11年）。
猛者揃いのチームで監督を務めた（前列左端が筆者）

その後の私の指導者観に多大な影響を与えていただきました。

最後に御山昇監督です。御山監督からは、現代武道の最先端のマインドを教えていただきました。しかし、その指導内容は高度過ぎて、いまだ身についている

とは思っておりません。ですが、一緒に過ごした時間・時代が私の銃剣道人生における財産だと思っています。

特に、御山監督が常々おっしゃっていることは「風を読む」ということです。先見の明があり、銃剣道が目指すべき武

道としてのあるべき姿を読みとり、そのために重視すべき技と、そのために必要な稽古を見抜く、眼力がすごいのです。

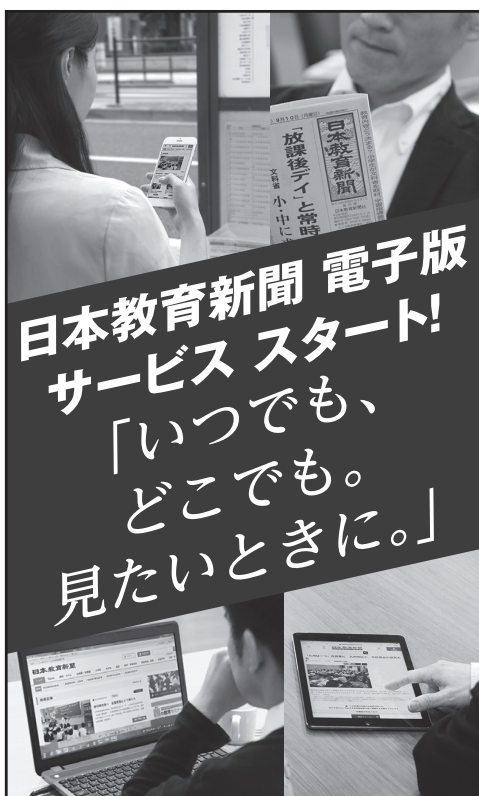
カリスマ性のある指導者とは、こういった方を言うのでしょうか。

このように素晴らしい監督、また、良き同僚に恵まれ、今日まで銃剣道人生を歩んでくることができました。

修業時代に心掛けたこと

「一生懸命だと知恵がでる、
中途半端だと愚痴がでる、
いい加減だと言いつがでる」

自分に甘えそうなとき、この言葉を思い浮かべ、自分自身を叱咤激励していました。他の人より先に道場に行き、先輩たちの輝かしい顕彰板を朝に・昼に・夕に見て、いつかはここに「小川功」の名前を残せるようにと、肚を決めておりました。



日本教育新聞 電子版
サービス スタート!
「いつでも、
どこでも。
見たいときに。」

スマートフォン・タブレット対応

日本教育新聞
NIKKYO WEB

「日本教育新聞」
ご購読の方は
電子版無料!!

お試し無料会員
募集中!

ホームページからは
会員登録をクリック!



まずはカンタン
無料会員登録!



N 日本教育新聞社
JAPAN EDUCATIONAL PRESS

日本教育新聞

検索



「三磨の位」で稽古に励み、自己の銃剣道確立に努めてきた

■青年選手時代

「なりふり構わず木銃を突け、
いつかはなるぞ早技に」

銃剣道は左構え半身となりますので、
数稽古で体に早く覚えさせて、試合にお
いても心手期せずして技が出るように稽
古しておりました。

■全日本選手時代

三磨の位―「習い」「稽古」「工夫」

稽古の質を考え、自分なりの剣風を工
夫し、稽古しました。特に、構え・突き
出し方などを研究し、自己の銃剣道確立

に努めました。

■指導者時代

正しい銃剣道の指導・教育に努め、正
しい構え・教育（共育）にあたり、情熱
を燃やし、誠実に選手と向き合うことに
努めました。

思い出に残る試合・演武

昭和55年、憧れの日本武道館におい
て、全日本青少年銃剣道大会で団体優勝

の成果を収めることができました。しかし、同年代だけの大会では勝てたものの、強豪が集う全日本銃剣道優勝大会の試合とは別物だと感じました。

令和の時代と同様に、平成時代は群雄割拠の時代であり、全国各地に強豪チームがいました。私は当初、全力で戦っても引き分けるのがやっとでしたが、稽古を重ねて30歳を過ぎた頃から、北海道から沖縄まで遠征して年間100試合以上の対外試合をこなし、やっと7割近く勝利することができ、何とか5人の代表選手に選ばれることができました。

平成3年4月、第35回全日本優勝大会1回戦で、北海道のチャンピオンチームである第18普通科連隊と対戦しました。次鋒の私は守ることなど一切考えず、攻めて勝利することができました。この試合が口火となり、団体戦3位の成果を収めました。今の私があるのは、この入賞があったからだと思います。



第20回全日本銃剣道選手権大会で「銃剣道の形」を演武。
打方・筆者（右）、仕方・相野照昭先生（平成24年）

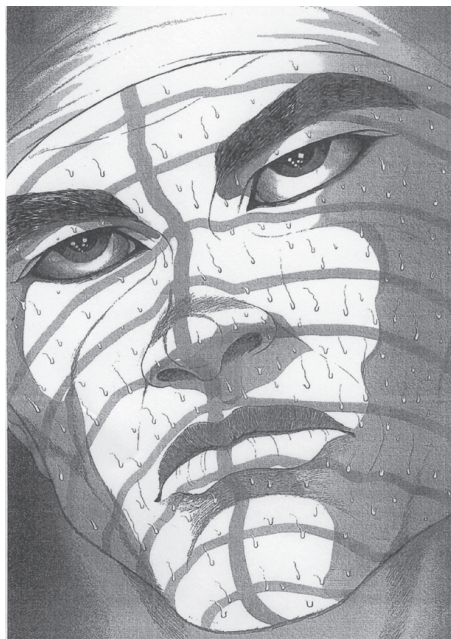
思い出の演武では、銃剣道の神髄には程遠い身ですが、平成24年の全日本銃剣道選手権大会で、形の演武をさせていだいたことが貴重な経験となっております。

選手時代は、まさかこの私が七段、八段の高段者となり、日本武道館で形の演武ができるなんて想像もしていませんでした。選手・指導者として、銃剣道を続

けてきたことを誇りに思うようになりました。演武では、動作については普段どおりに、仕方の相野照昭先生と真剣味をもって実施しました。

私の信条・座右の銘

「稽古は正直」



退官記念に後輩に描いてもらった、
面越しの筆者のイラスト

何といっても稽古です。考え抜いた稽古、無心な稽古、どれが欠けても試合に現れます。特に構え、「身構え・心構え」が大事だと思っています。

「継続は実力になり得る」

「無事之名馬なり」
ぶじこれいば

辞めないこと、続けること。夢、目標を持つこと。そして、肚を決めて前へ進むことです。負けても、転んでも、立ち上げばいいじゃないですか。日はまた昇ります。

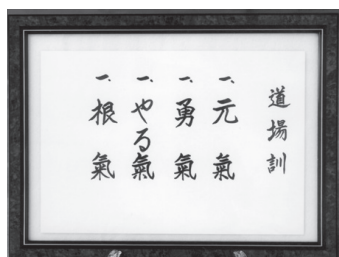
読者へのメッセージ

定年を迎えるにあたり、自衛隊退官後が本当の銃剣道の修業だと感じるようになりました。銃剣道、仕事、家庭のどれもが自衛官時代とは違い、しっかりした組織の中で環境をつくってもらうのではなく、自分自身で実践していくことが大事だと考えました。現在の私があるのは、全国の先生方、剣友たちに育てていただいたお蔭^{かげ}であり、心から感謝を申し上げます。

銃剣道への恩返しができればと思い、退官4年後に少年・少女のために、地元千葉県船橋市で「船橋武道倶楽部」という道場を立ち上げ、銃剣道・短剣道の指導を始めました。現在、保育園児から高校生までの22名が、元気いっぱいに楽しんで中にも厳しさをもって稽古に励んでいます。

銃剣道という素晴らしい武道を少年・

少女に伝え、木銃のバトンをしっかりと繋^{つな}いでいきたいものです。



▲銃剣道への恩返しで、平成27年4月に「船橋武道倶楽部」を設立。道場訓は「元氣、勇氣、やる氣、根氣」

▶全日本少年少女武道（銃剣道）錬成大会に出場した道場の子どもたちと



令和6年武道振興大会



盛山正仁文部科学大臣（右）と高木陽介武道議員連盟副会長・理事長

学校武道に外部指導者を

武道振興の要望を盛り込んだ決議
文を盛山文部科学大臣に手渡す



丹羽秀樹
武道議員連盟理事・事務局長



川端達夫
日本武道館理事長



高村正彦
日本武道館会長



江渡聡徳
武道議員連盟会長



5年ぶりに開催された懇親会で乾杯の発声を行う川端理事長（壇上）

令和6年武道振興大会が武道議員連盟、日本武道協議会、日本武道館の3団体共催により3月6日、東京千代田区永田町の衆議院第一議員会館で国会議員・武道関係者約216名が出席して開催された。大会では、学校武道で外部指導者を活用するなど武道振興発展のための7事項を盛り込んだ大会決議が採択され、高木陽介武道議員連盟副会長・理事長から盛山正仁文部科学大臣に手渡された。盛山文科相の祝辞と各武道団体の代表者が挨拶を行い、5年ぶりの懇親会が行われた。

丹羽秀樹武道議員連盟理事・事務局長の開会宣言で始まり、主催3団体を代表して江渡聡徳武道議員連盟会長が「いよいよ社会はポストコロナを迎え、本大会も盛大に開催されました。私たちの目的は『国家百年の計』です。社会をよくすると同時に武道を通じて立派な人材を育てて世界に誇れる国をつくることです。武道議員連盟は武道関係の皆さまとともに、日々努力を重ねてまいります」と挨拶を行い、続いて高村正彦日本武道協議会・日本武道館会長が「武道必修化によって武道振興の仏の形ができました。これからはその仏に魂を入れなければなりません。魂を入れるということは武道の真髄に触れるということです。そのためには武道家が教員とともに武道授業を行う形を作らねばなりません。部活

動にも武道家が入らなければなりません。それらが実現すれば、魂が入るのです。令和は魂を入れる時代です。武道関係者が一体となって努力をしていきましょう」と挨拶を述べた。

次に高木武道議員連盟副会長・理事長が大会決議を読み上げると満場の拍手をもつて採択され、盛山文科相にしっかりと手交された。続いて、盛山文科相が「武道は歴史と伝統に培われた世界に誇る日本文化です。今日、武道が広く親しまれていることは武道関係者の皆さまの努力の賜物です。文部科学省でも学校で多様な武道種目の実施を支援するなど、武道のより一層の振興を図ってまいります。引き続きご協力をお願いします」と祝辞を述べ、岸田文雄内閣総理大臣の祝辞文を司会の吉川

英夫日本武道館常任理事・事務局長が代読した。

9道武道団体の代表者が挨拶に立ち、現在の活動状況と今後の抱負を述べた。

挨拶後は川端達夫日本武道協議会・日本武道館理事長が「この場で長らく懇親会ができませんでした。交流の場が持てることをありがたいと思っております。それぞれの項目



高村正大武道議員連盟事務局次長（右）と宗昂馬少林寺拳法連盟会長（中）



江渡会長（右）と番匠幸一郎全日本銃剣道連盟会長

が実現するようそれぞれの立場で行動し、より武道が発展するよう祈念します」と述べて乾杯の発声を高々に上げた。5年ぶりの懇親会では、各道関係者はコロナ禍で苦楽を共にした同志らと和やかに歓談し、明日の武道振興へ弾みをつけた。

最後は武道議員連盟の高村正大事務局次長が閉会宣言を行い、大会は大盛況のうちに終了した。



▼文部科学省 盛山正仁大臣が武道界へメッセージ



盛山文部科学大臣に武道団体に向けてメッセージをいただいた。

「ただいま決議文をいただきました。この決議を少しでも具現化できるよう、文部科学省として精いっぱい・力いっぱい努力をさせていただきます」

決議

我が国は、明治維新以来、驚異的な勢いで国力を増し、世界有数の経済大国となった。しかし、昨今は国際情勢が厳しさを増し、価値観の多様化も相俟って、行動規範や善悪の基準が揺らぎ、明るい国家、社会の将来を見通すことは難しくなっている。

このような中であって、武技による心身の鍛錬を通じて人格を磨き、識見を高め、有為の人物を育成することを目的とする武道は、旺盛な活力と清新な気風の源泉として日本人の人格形成に少なからざる役割を果たしてきた。

我が国伝統の武道の普及奨励は、精神を高揚し、質実剛健の気風を育成するばかりでなく、国家・社会の発展に寄与し、広く世界の平和と福祉に貢献する人物を生み出すために必要不可欠である。これは、教育基本法に示される「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」という目的とも合致する。

よって、我々は武道のさらなる振興発展が図られるよう、ここに左記事項の早期実現を強く要望する。

記

一 必修化された中学校武道授業に関し、学習指導要領に並列明記された武道全九種目が幅広く実施されるよう、外部指導者を活用した複数種目実施のモデル事業を全国各ブロックで継続して行うこと。そのために必要な措置を講ずること。

二 中学校武道授業が充実、成功するよう、施設、用具、指導者の条件整備をより一層推進すること。

特に、指導者については、教員養成大学で武道を必修化し、中学校教員採用試験に武道を試験科目として位置付けるとともに、武道有段者の学生を積極採用するよう各都道府県教育委員会に働きかけを行うこと。さらに、充実した授業が実施できるよう優れた外部指導者を各中学校に配置し、処遇改善を図って、指導に万全を期すること。

内閣総理大臣祝辞

「令和6年 武道振興大会」の御盛会を心よりお慶び申し上げます。

武道は、心・技・体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養う、人間形成の道であり、世界に誇る日本の伝統文化です。

予測困難な時代を生き抜き、新しい時代を切り拓く原動力となるのは「人間の力」です。日本の未来を担うこともたちが武道を通じて、人間形成を図り、「人間の力」を高めることは、現在のみならず将来においても、重要な意味を持つと確信しています。国においては、全国の中学校で武道を必修とする中、武道の推進校を指定し、学校における武道の教育の一層充実に取り組んでいます。

今日、武道は、日本のみならず、広く世界の人々に愛され、親しまれています。今後とも、より多くの皆様の心身の健全な発達のため、そして武道を通じた日本理解や国際親善のため、お力添えをいただきますようお願い申し上げます。本日御参加の皆様の御健勝と、武道のますますの御発展を祈念し、私のお祝いの言葉といたします。

令和6年3月6日

内閣総理大臣 岸田文雄

と。また、全国一万余校の中学校体育教員を対象とした武道指導者講習会を、関係武道団体の協力を得て、実施すること。授業に当たっては、時間数を増やし、複数種目の実施校拡大を図り、武道ならではの教育効果が上がる「礼」を重視した指導を徹底すること。これに関わる武道九種目の指導者研修会や指導法研究、指導書作成等、関係団体の諸活動に必要な支援、助成を行うこと。

三 将来の小学校における武道授業の実施へ向け、実践校における実践研究をより積極的に展開し、発達段階に応じた武道九種目の指導法研究を行い、準備を推進すること。

四 武道の国際的普及振興のため、国内外における武道の国際大会や国際交流事業をより一層推進するとともに、海外日本人学校における武道授業の内容充実に向け、必要な支援、助成を行うこと。

五 全国的な武道の普及振興をより確かなものとするため、全国都道府県立武道館協議会の活動に対する支援と、各都道府県武道協議会の設置促進に必要な支援を行うこと。

六 武道の源流である一千数百年の歴史を有する古武道の保存・継承を図るため、伝統流派の活動の成果を認め、文化財保護法に、我が国が世界に誇る「古武道」の名称を明記し、全国各地の古武道の文化財指定が推進されるよう所要の措置を講ずるとともに、文化庁長官表彰の授与など必要な支援、助成を行うこと。

七 武道場の整備については、武道授業を含め、国の補助制度を拡充するとともに、必要な支援、助成を図ること。全国の武道館及び町道場については、維持存続のため、修繕・新築に関する助成金の支出、賃料・地代の援助、相続税・固定資産税の減免措置を講ずること。

以上、武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館三者によって共催する武道振興大会の名において決議する。

令和6年三月六日

各道代表者の挨拶とインタビュー

本項では、9 武道の代表者の挨拶を掲載します。また、各団体代表者に「中学校部活動・クラブ活動の地域移行について」各団体の現状と課題・展望を伺いました。



中里 壮也
全日本柔道連盟副会長兼専務理事



加藤 出
全日本弓道連盟会長



笹川 堯
全日本空手道連盟会長



宗 昂馬
少林寺拳法連盟会長



番匠 幸一郎
全日本銃剣道連盟会長



網代 忠宏
全日本剣道連盟会長



南和文
日本相撲連盟会長



植芝 守央
合気会理事長



久保 素子
全日本なぎなた連盟会長

■代表者挨拶

◎全日本柔道連盟・中里壮也副会長
兼専務理事

「今年はパリ五輪が行われます。14 階級で代表者が内定しました。また、令和6 年度は新たに発達障がいの方に向けた普及振興に取り組んでまいります」

◎全日本剣道連盟・網代忠宏会長
「コロナで生き抜く術^{すべ}を習得し、昨

年は事業を完全実施しました。今年は、7 月に第19 回世界剣道選手権大会をイタリア・ミラノで開催します。18 回大会がコロナ禍で中止となりましたので国際大会をできることに喜びを感じております」

◎全日本弓道連盟・加藤出会長
「今年2 月に第4 回世界弓道大会が名古屋市で開催されました。大会は大成を収め、日本の2 チームが優

勝・準優勝に輝きました。弓道の課題は社会人になるとやめてしまう人が多いことです。なかなか戻ってきません。年齢ギャップを埋められるよう努めてまいります」

◎日本相撲連盟・南和文会長
「昨年は世界大会を東京で盛会に開催しました。相撲が世界に普及するにつれ、日本人、特に女子が勝てなくなりしました。これは外国で相撲が

男女とも普及したことによりです。日本ではまだまだ女子の普及が広がって、一層の努力をしております」

◎全日本空手道連盟・笹川堯会長
「昨年は家庭の中に空手が入るよう、ゆるゆる大会やガチンコ大会などを行いユーチューブで発信しました。また、特別支援学校で多くの空手道授業実施の要望をいただいてお

ります。電話一本で職員が全国どこでもお伺いします」

◎合気会・植芝守央理事長

「今年は8年ぶりに第14回国際合気道大会を代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで、85カ国の代表者と2千名の会員を集めて開催いたします。これからもしっかりと合気道の普及に努めます」

◎少林寺拳法連盟・宗昂馬会長

「昨年は世界大会を6年ぶりに開催できました。今年の大きな目標は公益法人化です。新たな時代に新しい拳士を増やしていくこと、社会に求められる少林寺拳法にするべく努力していきます。拳と心を鍛えながら未来に歩を進めてまいります」

◎全日本なぎなた連盟・久保素子会長

「今年はアメリカで第8回世界なぎなた選手権大会が開催されます。日本選手団は世界に向けて凛としたなぎなたを発信できるよう精進します。先の令和6年能登半島地震において、なぎなた関係者も甚大な被害を受けました。こうした困難な局面において、なぎなたは思いやりを重んじる武道の心を通して復興に寄与してまいります」

◎全日本銃剣道連盟・番匠幸一郎会長

「銃剣道は昨年・今年と全ての活動を再開できました。本連盟は以下の二つを重視しております。一つは国際化です。近年では銃剣道に興味を持つ欧州・アジアの方が増えてきました。令和6年度中に国際連盟の設立を目指します。もう一つは、女性とジュニアに対する振興です。銃剣道はジェンダーに関係なく健康増進・護身術ができる武道です」



■インタビュー〈中学校部活動・クラブ活動の地域移行について〉

◎全日本柔道連盟・中里壮也副会長兼専務理事

「いくつか方策があります。一つは拠点校を定めて、そこで合同部活動を行う。もう一つは地域の核となる高校や大学に集まって実施する。それから地域のスポーツクラブの活用です。そして市区町村などの柔道連盟が主体となつて行うものです。さまざまな形態がありますので地域にあった形で実施いただければと思います。課題は中学校から柔道を始める生徒をどのように繋ぎ止めるかです」

◎全日本剣道連盟・網代忠宏会長

「市区町村教育委員会と地域の剣道連盟のコンタクトが上手くいつてない状況です。進んでいる地域もありますが、まだまだ進んでいないのが現状です。教育委員会との連携を深めていければと思います。地域の指導者の研修などをやっていく必要があると思います」

◎全日本弓道連盟・加藤出会長

「実施している県が多少あると伺っています。地域でクラブ活動を行うことで、やがて地域の指導者が育ち、社会人の弓道人口減少に歯止めがかかればと思います」

◎日本相撲連盟・南和文会長

「どんどんと推進しております。地域移行に向けての講習会も開きました。講習会を行い、共通理解を広めて深めることが大切です。各地域の相撲経験者の活用が鍵となります」

◎全日本空手道連盟・笹川堯会長

「文部科学省や日本体育協会支援のもと中学校の教員に向けて講習会を行っています。教員が空手を理解しないと安心して実施できないと思います。空手道は伝統を守りつつも安心・安全なスポーツとして盛んに実

施していただきたいと思っています」

◎合気会・植芝守央理事長

「部活動として合気道を取り入れている中学校・高校はまだまだ少なく、地域クラブ活動に移行する段階ではないのが現状です。まずは、合気道を学校教育の中でできるようにしていくことだと思います」

◎少林寺拳法連盟・宗昂馬会長

「学校側の要望と指導者側の理解が噛み合う環境をつくるのが急務です。兵庫県や岡山県などは実施校があります。指導者のコーチング力を鍛えていかねばなりません」

◎全日本なぎなた連盟・久保素子会長

「進捗状況に地域差があります。香川県の琴平町では、地域に移行しているところもあります。課題としては、指導者不足や金銭面などがあります。一步一步進めていかななくてはならないと思っています」

◎全日本銃剣道連盟・番匠幸一郎会長

「都道府県連盟に要望を伺って、実施希望がある地域は全面的に協力するような体制をとっております。駐屯地などでは銃剣道が盛んに行われています。そのような場所を拠点として実施できたらと思います」